

現代日本語における表現の「やわらげ」 ～「そうだ」、「げ」、「ぼい」などの場合～

Kekidze Tatiana

キーワード やわらげ、ぼかし表現、非断定的表現、婉曲、話し言葉

1. はじめに

本稿では、以下の例文のように、断定しようと思えばできるにもかかわらず、非断定的な形式が選択される現象に注目したい。¹

1. (ミキサーに果物を入れて、2回やってみても回らない) 回らないようですね。
2. それも今までにこやかそうな顔がもつとにこやかになっていて…。
(isweb2.infoseek.co.jp/shin27/a/log-ocha/1999/1999-1201-1231.html)
3. 何だか早起きしたせいもあって、ちょっと眠たいかも。
(www1.nyan.ne.jp/rekone/kako/nikkill.htm)
4. (自分のことについて) ちょっと不安っぽい感じ。

上記の表現は、話者が実際に「Xだ」という断定に至っていないことを表わす場合ももちろんある。しかし、少なくとも、上記のような表現が断定を避け表現をやわらげる目的で用いられる可能性があるということがここでは重要である。本稿では、本来の用法と表現をやわらげる用法との二通りにとれるような表現については、本来の用法としての解釈には触れず表現をやわらげる用法だけを問題にする。この用法を「やわらげ」と呼ぶことにし、次のように定義する。

「やわらげ」とは、話者は、断定しようと思えばできるにもかかわらず、その表現の強さを避けるためにあえて非断定的な表現を選ぶという方策である。²

本稿では、「ようだ」、「めいた」、「げ」、「そうだ」、「かもしれない」、「ぼい」を取り上げることにする。断定を避け表現をやわらげるという同じ目的であっても、それぞれの形式の本来の意味によって「やわらげ」の効果を得る仕組みが異なっている。以下、形式ごとに順に見ていくことにする。

2. 「やわらげ」の用法

2.1 「ようだ」の場合

まず、「ようだ」という形式について見てみよう。早津 (1988)、仁田 (1992) などですでに指摘されているように、「ようだ」は、本来推量を表わす形式である (例文5.) が、「やわらげ」にも用いられる (例文6. ~9.)。³

5. おや、隣の部屋に誰かいるようだ。
6. (食べてみて) これはおいしいようだ。
7. (ミキサーに果物を入れて、2回やってみても回らない) 回らないようですね。(例文1. を再掲)
8. (友人の奥さんの車が家に近付いてきているのを見て) 帰ってきたようですね。
9. もう七月も半ばだというのに、今年は梅雨明けが遅いようですね。(早津の例文番号 (35)、p.57)

例文5. の話者は確信がないことを推量して述べるのに対して、例文6. ~9. の話者は、確信があることについて断定を避けることで表現をやわらげている。このように推量の「ようだ」が「やわらげ」に用いられるのは、事態を客観的な真理として表わす断定表現よりも、話者の個人的な推量にすぎないことを認める表現の方がよりやわらかい印象を与えるからである。この点については早津 (1988) も『「少なくとも自分にはこう思われる』』というように控え目に述べようとしている」(p.57) と述べて、同様の指摘をしている。

2.2 「めいた」の場合

ここでは、「春めいた」などのように用いられる「めいた」を取り上げ、この形式も話者の言い方をやわらげるために用いられる可能性があることを示す。⁴ 筆者の調べた範囲では、この形式に関する先行研究はない。『広辞苑』(第五版) の記述を見ると、「特にそう見える。そういう感じがはっきりする」とある。この記述は一般的すぎて「めいた」の意味を十分に説明しているとは言えない。しかし、少なくともここから言えるのは、「めいた」は何らかの雰囲気・様子を表わすために用いられる形式であるということである。以下の例文を見てみよう。

10. その他で面白かったのは洞窟風呂でしょうか。加古川の「みとろ荘」にもありましたね。何となく秘密めいた感じがします。

(www.5a.biglobe.ne.jp/~unsui/html/2002/kanmaki.html)

11. 何となく謎めいた雰囲気、悲しげな表情、寂しげな印象が、たくさんの女性ファンを引きつけたのか。

(www80.tcup.com/8045/masayeforever.html)

12. お母さんめいた口ぶり。

上記の「XめいたY」では、話者はXというものが持っている雰囲気や外観を表わす「Xめいた」という形容詞的働きをする表現によって、[Y]を特徴付けているのである。⁵つまり、この「Xめいた」は、[X] そのものではなくその属性を表わし、本質のはっきりつかめな様子について用いられている。これが、「めいた」の本来の用法であると考えられる。

しかし、「XめいたY」の[X]が[Y]の下位概念であるケースもある。例えば、「批判めいたこと」では、「批判」は「こと」の一種であるから、この表現の[X]（「批判」）と[Y]（「こと」）は下位概念・上位概念の関係にある。このような場合は、「めいた」を含む表現は、二通りに解釈できる。まず、一つの解釈は、上記の例文と同様に、話者が対象の本質をはっきりつかめないから、「めいた」を用いているということである。そして、もう一つの解釈として、断定を避け、話者の主張をやわらげる目的で「めいた」が用いられるという可能性も考えられる。以下の例文でこれを確認しておこう。

13. なんか暴言めいた発言をして申し訳ありませんでした。(つていうかもろ暴言ですが) 原因が判明して何よりです。

(www.digitalpad.co.jp/~takechin/bbs/article.php?A=7933)

14. さて、改めて国際化、しかも地域の中の国際化ですが、どういう意味合いになるのでしょうか。結論めいたことを先に云ってしまうと、それは暮らす地域の中でよき隣人関係に成長するというのでしょうか。

(www.tif.or.jp/koryu/lespace/0003/p03.html)

15. 07:45大ヨケの頭に到着。この先で急に建設機械が現れる。林道工事だ。ダムを挟んだ反対側の長尾丸山にも林道で削られた山腹が見える。山を歩く者にとっては残念な景観である。(日頃、車利用の際、通行可能な林道を走らせて貰っているので、批判めいたことを言える身ではないのだが…。)

(www.asahi-net.or.jp/~pn3h-nso/warabi.html)

上記の例文では、話者は対象の本質を「暴言である」や「批判である」と言えるほど断定的にはとらえておらず、「めいた」をその本来の意味で用いた可能性がある。しかし、本質を断定的にとらえているにもかかわらず、断定を避け自分の主張をやわらげるために「めいた」を用いた可能性もある。例えば、例文

13. では、「発言」が明らかに「暴言」であるのに、話者は「暴言」という表現がストレートすぎると感じ、「めいた」を用いることによって、表現をやわらげている可能性もある。実際に、直後に「っていうかも暴言ですが」とあるから、「暴言めいた発言」は「やわらげ」である可能性が高い。

2.3 「げ」の場合

「得意げ」や「楽しげ」などのように用いられる「げ」は、本来、(ある事態の現れとしての) 外見を表わすために用いられる形式である(ケキゼ(2002))。そして、「げ」の「やわらげ」用法というのは、本来外見を表わす表現に付くことによって外見という側面を強調することから生じている。実体についての判断に直接言及するかわりに、外見を焦点化することで「やわらげ」の表現となるのである。以下の例文を見てみよう。

16. さっきから家の周りを怪しげな男がうろろうしている。

17. おぼつかなげな足取り。

例文16. では、「怪しげ」というように、「げ」を用いることによって、焦点は「男」の外見に当てられ、「怪しい」という話者の判断がやわらげられている。例文17. も同様に分析できる。つまり、「げ」を用いることによって、焦点は「足取り」の表面的様子に当てられ、「おぼつかない」という断定が避けられていると考えられる。拡張がさらに進むと、外見を持たないようなものについても表現をやわらげる目的で「げ」が用いられるようになる。そのような表現として、「悲しげな余韻」や「楽しげな季節」などの例が挙げられる。

2.4 「そうだ」の場合

次に、「そうだ」の場合である。本来、「そうだ」は、知覚された事態Aを別の事態Bを成立させる条件(の一つ)としてとらえた結果を表わす(ケキゼ(2000)、Kekidze(近刊))。例えば、「おいしそうだ」とは、問題の料理の外観やにおいを「おいしい」という事態を成立させる条件(の一つ)としてとらえた結果を表わす表現である。しかし、この「そうだ」は断定を避ける目的で用いられることもある。以下の例文を見てみよう。

18. (名古屋大学の院生宛のメール)大学院生の皆さんにアルバイトのお知らせがあります。本来は〇〇大の院生にきた話ですが、諸事情により難しそうですので、もし興味がありましたら、ぜひ△△までお知らせ下さい。

このメールの書き手は「諸事情」を根拠として「難しい」と判断していると考えられる。その判断を伝えるにあたって、断定表現を用いず「そうだ」を用い

ている。ここで「そうだ」の役割は断定を避け表現をやわらげることである。同様に、以下の例文における「そうだ」の役割も「やわらげ」であると考えられる。

19. (お見舞いに来て) 顔色がよさそうじゃないですか。
20. (「羅布麻茶」というお茶について) 名前がややこしそうだから、確かに構えてしまうかもしれないですね～。
(www.e-kusuri.net/contents/tea_1.cfm?type=tea_1&locate=ue)
21. (健康食品について) なにか怪しそうな感じがするのですが。
(www.excel55.com/qa.html)
22. 髪の毛は長さほさで長く、ぼろの服を着ています。とてもみすぼらしそうな男です。
(www.ii-okinawa.ne.jp/people/oshiro-5/dome/kakasi.html)
23. それも今までにこやかそうな顔がもっとにこやかになっていて…。
(例文2. を再掲)

上記の例文では、対象の外見(表面的様子)だけで断定が可能であると考えられる。そこで「そうだ」の役割は、断定を避け話者の主観的主張をやわらげることであると考えられる。以下は、話者が実際に断定に至っていないのか、それとも断定しているが「そうだ」によって表現をやわらげているのか、どちらの解釈も可能な例である。

24. (ある提案の内容を聞いて) おもしろそうですね。
25. (試してみてから) これはよさそうですね。
26. (実際に使ってみて) これは使えそうだ。

特定の状況の中で用いられた特定の表現がどちらの意味であるかについての最終的決定権は、話者にしかない。しかし、少なくとも上記の例文が「やわらげ」である可能性があることは言えるであろう。

2.5 「かもしれない」の場合⁶

「かもしれない」は本来「可能性がある」という判断を表わす。⁷以下の例文はその本来の意味である。

27. (空を見て) 雨が降るかもしれないから、傘を持っていきなさい。
例文27. では、話者は「空の様子」などの状況から「雨が降る可能性がある」というような判断を下し、それを「かもしれない」という形式によって表わしている。しかし、以下の例文が示すように、「かもしれない」は「やわらげ」にも用いられる。

28. あ、これはうれしいかもしれない!

例文28. の「うれしい」は話者自身の感情であるから、ここで「うれしい」というように断定しようと思えばできると考えられる。この場合、「かもしれない」を用いる目的は、「やわらげ」であると考えられる。以下の例文も「やわらげ」であると考えられる。

29. (両角美沙子 (モロズミミサコ) という名前の人の文章) なかなか一発でこの名前を読んでもらえたことはなかったなあ。だから昔は新学期とかがあまり好きじゃなかったかも。知ってる子とかの前で初めての先生が「リョウカクさん」とか呼ぶとみんなに笑われた。逆に読んでもらえるとかかなり嬉しかったしみんなも「おっ」という反応でそれもまたおもしろかったかもしれない。

(st.clas.kitasato-u.ac.jp/~z99115/morozumi.html)

この話者は、名前を呼んでもらえないという不愉快な経験を繰り返しており、明らかに新学期が好きではないととらえている。したがって、この「かも」は「やわらげ」であると考えられる。直後に出てくる「かもしれない」も同様である。

以下のような例文の「かもしれない」も「やわらげ」であると考えられる。

30. それにしても、この本は読み終わるまでずいぶんかかりました。序章はすっといけたけど、第1章でかなり疲れたかも。

(www11.u-page.so-net.ne.jp/db3/fuyuki02/dial11.htm)

31. 嫌いな人はいるかなあ？今は周りにはいないのですが(嫌いな人と連絡取らないからか、いつのまにかいない)馬鹿はきらいかも？自分が馬鹿だから相手までばかだと困るというのがありますが(ハハ)すぐキレるとか5回も6回も同じこといわせるとか。あ、あとしつこい人もきらいかも。

(web.kyoto-inet.or.jp/people/casa-kin/meg/pages/MEG.html)

32. おう、お前ら元気か？私は元気かも知れません。1ヶ月も更新してないと、どんな口調でここに書いていたのか、忘れてしまいました。

(www.susnet.co.jp/douller/nanpaspot/)

33. 「…つまらないですか？」「いやっそんなことないよ！たださ、ちょっとお腹すかない？」「あーそうですねー。うん、お腹すいたかも」「よし！じゃあご飯食べに行こう、ね！」

(mseek.obi.ne.jp/kako/green/1009907672.html)

34. 何だか早起きしたせいもあって、ちょっと眠たいかも。(例文3. を再掲)

上記の例文の「きらい」や「疲れた」などは、話者自身の感情・感覚であるか

ら、話者は断定しようと思えばできると考えられる。したがって、この場合の「かもしれない」（「かも」）の役割は「やわらげ」である。森山（1992）が指摘しているように、「推量の表現とは、ある内容を述べるとともに、それに矛盾対立する内容も成立する可能性があることを暗示する。」ということである（p.68）。「特に、カモシレナイにおいては、確実性が低いという意味特性から、その内容に対する否定もほぼ同列に並べられることもあり、確率が五分五分であることを強調すれば、『彼は1年生かもしれないし、1年生でないかもしれない。』のような文も可能である。」とある（p.67）。「かもしれない」の「やわらげ」用法は、この特徴を生かして成り立っていると考えられる。例えば、例文28.の「うれしいかもしれない」という表現は、「うれしい」とほぼ同列に「うれしくない」可能性を含意しているから、「うれしくない」可能性を排除している「うれしい」という断定よりもやわらかい印象を与えている。

2.6 「ぼい」の場合

ここでは「ぼい」について見てみよう。この形式の基本義は、「黒っぽい」や「湿っぽい（畳）」などのように、「Xっぽい」のXが知覚的属性を表わす用法である（詳しくはKekidze（近刊）を参照）。この用法は、対象は「[X]を話者の暗黙の基準値よりも多く含む。ただし、その値は最大値には至らない」という意味を表わす。これを以下の例で確認しておこう。

35. 肌の弾力・ハリが失われて表面がしぼんでしまい、細かい陰影ができて肌色が黒っぽく見えてしまう場合も、くすんで来たといえます。（山下の例文番号はく8）、p.187）

この場合、話者は肌色について「黒」の値が少ない（「白」に近い）色を基準とし、問題の肌色を「黒という知覚的属性を話者の暗黙の基準値よりも多く含む。ただしその値は『黒』という最大値には至らない」というものとしてとらえている。「[X]が最大値に至らない」という制約は、「黒っぽい」という表現が本来の黒いタイプの黒板について用いられないということから明らかである。また、「黒い洋服」よりも「黒っぽい洋服」の方が「黒」の程度が低いことから、「黒っぽい」という表現では、「黒」が最大値に達していないことがわかる。[X]の値が「最大値には至らない」というこの含意は、「ぼい」には[X]の程度を下げるためにも用い得るという可能性があることを暗示している。[X]の程度を下げれば、「Xだ」という断定的な判断が避けられる。これが「ぼい」による「やわらげ」の仕組みである。これを具体的な例で見てみよう。

まず、「きざっぽい／きざな表現」や「皮肉っぽい／皮肉な内容」という表現は、同じ対象についての同じ評価に基づいて用いられることがあるが、「ぼい」の

付いた形の方がよりやわらかい印象を与える。⁸これは、「きざだ」というより「きざっぼい」という表現の方が[X]の程度が低いからだと考えられる。つまり、[X]の程度を下げることによって、「Xだ」という断定が避けられ、話者の主張がやわらげられていると考えられる。「きざっぼい」や「皮肉っぼい」は安定した日本語の表現である。しかし、現代日本語では、「ぼい」の「やわらげ」用法は、以下のように新奇表現を作るためにも頻繁に用いられている。

36. (ある彫刻について) よく見ると、ちょっと雑っぼいですね。

例文36. では、「っぼい」のない「雑だ」よりも「っぼい」の付いた「雑っぼい」の方が、「雑さ」の程度が低い。しかし、ここでは「雑だ」というように断定もできる。このように、[X]の程度を下げて述べるのは、やはり「やわらげ」であると考えられる。以下の例文も「やわらげ」の用法であると考えられる。

37. 新しい体育の先生に「ちせ！」って呼ばれて返事をしない私って、学校、クビになっちゃうのかなあ。「反抗的だ」「悪い芽だ」って、学園長室に呼ばれてしまうような大変っぼいことになってしまったし。私はただ、他の子と同じように普通に名字で呼んでほしいって、お願いしただけなのに。

(www6.big.or.jp/~fumyu/Family.html)

38. これはちょっとずるっぼいんだけどね。

39. クラッチとか何となく覚えたが、ギアチェンジがまだまだ不安っぼい。まあもう少しで完璧になるとは思うが…。

(www6.big.or.jp/~harukana/j2196106/dy/dy0008.html)

40. 服はセクシーっぼかった。

(www.tya.1st.ne.jp/~toshit/free98.html)

41. (博士論文の審査員) さっそく批判っぼいことを言い始めてますけど…。

42. アニメはじめてみた。割と良くできてるっぼいね。

(www.tom.sfc.keio.ac.jp/~next/diary/1999/8/24.html)

43. (ページのタイトル) お知らせっぼいこと。

(<http://www30.freeweb.ne.jp/play/bernerd/topic.html>)

上記の表現では、「Xだ」という断定のかわりに[X]の程度を下げる「っぼい」を用いることによって、話者は表現をやわらげている。

2.7 「やわらげ」専用の形式について

上に見た形式は、六つとも「やわらげ」専用ではない。いずれの場合も、「や

「やわらげ」の用法は、「成立条件」や「外見」など、それぞれの形式の本来の用法から派生的に生じてくるものである。

それでは、「やわらげ」専用の形式はそもそも存在するのだろうか。もし、「やわらげ」専用の形式が存在するとすれば、その形式は「本当は断定である」という含意を当然持つことになる。しかし、表現の意味がそうしたものであるならば、その形式を用いるだけで、実際は断定であることが伝わってしまう。つまり、「やわらげ」の効果が生じない。そこで、「やわらげ」効果を出すためには、他の形式を本来の用法からずらして用いる必要がある。本来は断定できないケースで用いられる表現であればこそ「やわらげ」の効果が生じるのである。したがって、「やわらげ」専用の形式というものは考えられないというのが結論である。

3. ぼかし表現

本稿は、断定を避け話者の表現をやわらげる目的で用いられる非断定的形式に注目した。しかし、本稿の対象である形式には触れていないものの、断定的な表現を避けるという現代日本語の話し言葉で見られる傾向については、すでに村田(1994)が「ぼかし表現」として取り上げている。村田の言う「ぼかし表現」とは、「限定や断定や個性を回避する」(p.119)ために用いられる表現であり、具体的には以下の例文の下線部がそれに該当する。

44. (観光のバスガイドが言う言葉) みなさま、バスのほうは、ただいま、中央高速のほうへと、は行ってまいりました。
45. 免許はもってるほうですから。
46. 「お前ら、お似合いのカップルだよ」「…そうかなあ」「結婚とか、しないの?」。(『時の鳥籠』、p.363)
47. (テレビしか見ていない) テレビ見たりして。
48. あ、幸せだな、みたいな。
49. こちら、中央の仏さまは、木像になっています。
50. ～と思われる。
51. そう思うのは私だけでしょうか。
52. (私鉄の構内放送) ドアを閉めさせていただきます。

例えば、例文44. の話者は「バス」を「限定」するのを避けて、「ぼかす」。同様に、例文45. の話者は、自分が免許を持っていることを「個別」に言うのを避け、「免許を持っている人」のグループの一員として自分を表現している。こ

れも「ほかし」ということである。さらに、村田では言及されていないが、以下のように用いられる「～系」も「ほかし表現」と考えていいであろう。

53. A: 今日何食べたい? B: ううん、そうだね。すし系がいいね。

54. 彼女は、おやじはおやじでも、さわやか系好みだったし…。

「系」は、「すし」などの既存のカテゴリーの境界線を越えるカテゴリーを臨時に設定することによって、表現をほかしていると考えられる。上記の例文のような聞き慣れない組み合わせでは「系」の意味のあいまいさが十分に顕著である。しかし、「いやし系」や「出会い系サイト」などのように、日本語の慣習的単位となった表現では、「系」の「ほかし」効果が薄れてきていると考えられる。

村田の言う「ほかし表現」は広い範囲を指しており、これをいくつかの下位グループに分けることができる。まず、その一つは、「(バスの) ほう」や「とか」のように、該当範囲を広げることによって表現をあいまいにする形式である。もう一つは、「(ドアを閉め) させていただく」のように、(相手の恩恵を受けたかのように述べることによって) ある行為を自分の意志で行うことをほかすような表現である。そしてもう一つは、「～と思われる」などのように、判断の確定性(確度)を引き下げるような非断定的な表現である。⁹ 本稿の「やわらげ」用法はこの最後のケースに該当する。

4. 「やわらげ」と日本語

本稿は、日本語は他の言語よりも「やわらげ」の表現が好まれるという主張までは、するつもりはない。そのような主張をし、裏付けるためには、まず他の言語における「やわらげ」の実態を調べる必要があるが、本稿の狙いは、他の言語と日本語の対照ではなく、あくまでも日本語の実態の解明である。そこで、本稿の目的は、本稿の考察対象である「ようだ」、「めいた」、「げ」、「そうだ」、「かもしれない」、「ほい」という、いずれの形式も派生的な用法として「やわらげ」という用法を持っていることを示すことであった。このような拡張が生じること自体が注目に値することだと考えられる。「やわらげ」の表現が多く用いられるということは、逆に言うと、現代日本語では断定をきつい表現としてきらう傾向があるということであろう。また、「やわらげ」の表現を多用しているということは、それだけ話者が自分の表現行動を意識しているということでもあると考えられる。つまり、若者を中心に現代日本語話者はメタ言語意識が強いということである。

それでは、「やわらげ」用法は何のために用いられるのだろうか。まず、一つは、強い言い方で相手を傷付けないためであると考えられる。もう一つは、自分が言質をとられないように、つまり、自分自身が傷付くことがないように、よりあいまいな表現を選ぶのだと考えられる。現代日本の社会では、若者を中心に「傷付くのがこわい」と考える人が多いことは、マスコミなどで指摘されているが、このような対人関係の心理は言語のパフォーマンスの面にも反映されている。この観点から考えても、「乱れた言葉」として軽視されがちな話し言葉は、日本語話者の表現心理を反映しているものとしてもっと注目されてよいものであろう。

ただし、話し言葉は、本来の用法と切り離して見るのは無意味である。なぜならば、「乱れた日本語」と一般に言われるものも、実際は既存の意味に依存して、そのある一面だけを利用して使われているからである。どのような心理的な動機からどのような方向へと意味をずらしているかを、もとの意味を踏まえて明らかにしない限り、話し言葉の特徴は明らかにされたとは言えない。また、「ぼい」のような、そもそも話し言葉を中心に使われている形式についても、定着していないような新奇用法は、より安定した用法との関係から考察するべきであろう。

5. おわりに

本稿は、断定を避け表現をやわらげるという現代日本語に見られる傾向に注目し、この傾向について「ようだ」や「そうだ」などの非断定的形式の例で述べた。「やわらげ」はこれらの形式の本来の用法ではない。しかし、本稿は、このような派生的な用法はあくまでも本来の用法との関連で考察すべきだという立場をとり、この立場から考察を行った。本稿で挙げた例文の多くは、話者が本当に「Xだ」という断定に至っていないのか、それとも「Xだ」という断定に至ってはいるが表現をやわらげるために非断定的形式を用いているのか、どちらの解釈も可能である。しかし、少なくともここで取り上げた形式が表現をやわらげる目的で用いられることがあることを示すことが本稿の狙いであった。

相手を傷付けないなどの目的でよりやわらかい表現を用いるという現象は、どの文化にも見られるのではないかと予測できる。他の言語ではどのような方法で表現をやわらげているのか、またそれがどの程度広く使われているのかを観察し、その実態を日本語と比べるのは興味深い課題である。

注

- 1) 本稿で用いられる用例の多くはインターネットのホームページからの引用である。発信者の気持ちをすぐその場で伝える手段として使われることの多いインターネットの方が、小説などよりも話し言葉をより鮮明に反映していると考えられる。このことから、本研究では、インターネットは話し言葉の研究に貴重な材料を提供してくれるものとして利用価値が高いと考え、話し言葉の用例の多くをインターネットから引用している。
- 2) 仁田 (1992) はこれに近い「言い換え」を「婉曲表現」と呼び、次のように定義している (p.7)。

婉曲表現とは、①話し手は言表事態の成立が真であると認識している。
 ②言表事態の成立が未だ確認されていないところを有するものとして表現されている、といった、二要件から成り立っている。

しかし、仁田が扱っているのは、「そうだ」や「ようだ」など、本来推量の意味を表わす形式だけであるのに対して、本稿は推量表現でない「ぼい」なども考察対象に入れている。また、「婉曲表現」という用語は、「便所」→「お手洗い」などのような、国広 (2000) が「婉曲語法」と呼ぶものと間違えやすいので、ここでは採用しない。
- 3) 早津と森田では、「やわらげ」ではなく「婉曲」という用語が用いられているが、指している内容は本稿と同じであると考えられる。
- 4) 「めいた」のものの形は「めく」(「春めく」) であるが、筆者の観察では「めいた」の方が生産性が高いので、ここでは「めいた」という形だけ取り上げ、「めく」との置き換えには触れないことにする。また、「めく」と「めいた」の相互関係に関する研究は今後の課題としたい。
- 5) 本稿で言う X と Y は語であり、[X] と [Y] はそれぞれの語の表わす概念である。
- 6) ここでは「かもしれない」とその省略形の「かも」とを同じ意味を持つものとして扱い、両者の置き換えに関する詳しい考察は今後の課題とする。
- 7) 「かもしれない」が「可能性がある」ことを表わすことについては、寺村 (1984, p.235) や三宅 (1995, p.198) などによる。
- 8) これらの表現の中に、「ぼい」のある形とない形との間に特に差が感じられない場合もある。これは、「ぼい」の付いた形が一つの属性形容詞として定着し、「ぼい」のあいまい化機能が薄くなった結果だと考えられる。
- 9) 言うまでもなく、本文で挙げた「ぼかし表現」の分類は、あくまでも本稿

の考察対象を位置付ける目的で行った暫定的なものにすぎず、「ぼかし表現」の下位分類に関してはさらなる考察が必要である。

実例の出典

『時の鳥籠』 ー浦賀和宏 (2000) 『時の鳥籠』、講談社ノベルス

引用文献

- 国広哲弥 (2000) 「人はなぜ言葉を言い換えるか」(特集 ことばの言い換えー 隠語、婉曲語、カタカナ語…) 『言語』 Vol.29, No.10, pp.20-25
- ケキゼ・タチアナ (2000) 「『(～) そうだ』の意味分析」 『日本語教育』 107号、pp.7-15、日本語教育学会
- ケキゼ・タチアナ (2002) 「『げ』の意味分析」 『日本語文法』 2巻1号(通巻2号)、pp.3-21、日本語文法学会、くろしお出版
- Kekidze Tatiana (近刊) 『現代日本語の非断定的表現～「そうだ」、「げ」、「ぼい」を中心に～』 博士(文学)学位論文、名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』、くろしお出版
- 仁田義雄 (1992) 「判断から発話・伝達へー伝聞・婉曲の表現を中心にー」 『日本語教育』 77号、pp.1-13、日本語教育学会
- 三宅知宏 (1995) 「カモシレナイとダロウー概言の助動詞3ー」 宮島達夫・仁田義雄編 『日本語類義表現の文法』(上) 単文編、pp.197-200、くろしお出版
- 村田美穂子 (1994) 「ぼかし表現の新方向」 第59巻7号、『国文学 解釈と鑑賞』 特集 現代語のゆれ、pp.119-126、至文堂
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』 角川書店
- 森山卓郎 (1992) 「日本語における『推量』をめぐる」 『言語研究』 101、pp.64-83、日本言語学会
- 早津恵美子 (1988) 「『らしい』と『ようだ』」、『日本語学』 7-4、pp.46-61、明治書院
- 山下喜代 (1995) 「形容詞性接尾辞『～ぼい・～らしい・～くさい』について」 『講座 日本語教育』 第30分冊、pp.183-206、早稲田大学日本語研

究教育センター